

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 河内 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年 国語 117人 社会 117人 数学 117人

理科 117人 英語 117人

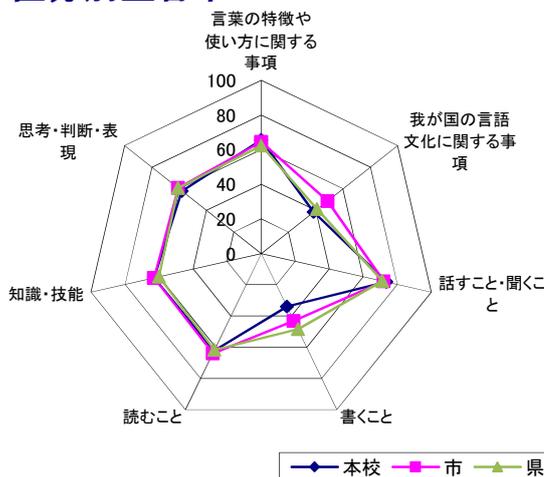
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	65.6	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	38.5	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	73.5	72.1	71.2
	書くこと	34.0	43.1	48.5
	読むこと	62.3	63.9	61.8
観点	知識・技能	62.9	62.9	60.1
	思考・判断・表現	58.0	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

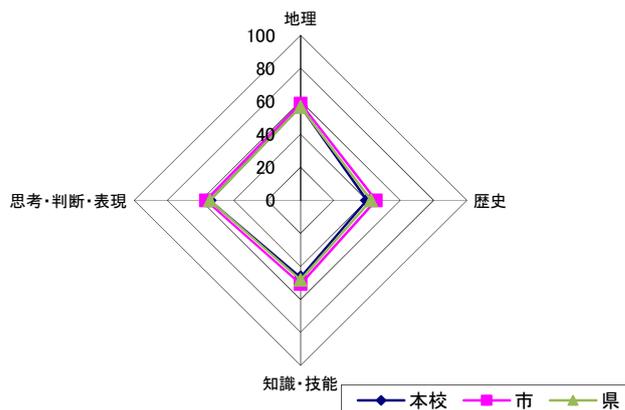
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、県平均を3.3ポイント、市平均を1.1ポイント上回っている。</p> <p>○第1学年までに学習した漢字を正しく書くこと、敬語の働きについて正しく理解すること、文節の関係について正しく理解することは県平均・市平均を上回る正答率であった。</p> <p>●第1学年までに学習した漢字を正しく読むこと、短歌の表現技法について正しく理解することは県平均・市平均を下回る正答率であった。</p>	<p>・読解、作文、話す・聞く活動を通して、語彙力、文法、表現力などを段階的に育てたい。</p> <p>・文脈の中での語句の意味理解、文章の構成の把握、筆者の意図や登場人物の感情を捉える練習、情報収集・整理の方法、敬語などの適切な言葉遣い、そして古典的な言語文化への理解を深める活動を取り入れて指導していきたい。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、県平均を2.6ポイント、市平均を10.2ポイント下回っている。</p> <p>●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題の正答率は県平均・市平均を大きく下回る正答率であった。</p>	<p>・内容を理解し、作品に親しむことを通し、日本の文化の豊かさに気づかせていきたい。</p> <p>・語句の意味を捉える力や、文章全体を理解する力を育てるとともに、言葉表現する際にも「話し言葉の運用能力」を意識させ、相手や場面に応じた言葉遣いを指導していきたい。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県平均を2.3ポイント、市平均を1.4ポイント上回っている。</p> <p>○話すこと・聞くことに関する問題のほとんどは県平均・市平均と同じか上回っている。</p> <p>●条件に従って話し合いのまとめを書く問題の正答率は、県平均・市平均と同程度であるが、20%台と低く、無解答率も10%台と高い。</p>	<p>・身近な話題でのスピーチ、グループでの話し合い、図表を使った説明など、言語活動を繰り返し指導していきたい。</p> <p>・ICT機器の活用やメモ交換など振り返りの機会を設け、生徒が主体的に話し方・聞き方を身につけられるようにさせたい。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県平均を14.5ポイント、市平均を9.1ポイント下回っている。</p> <p>●書くことに関する問題はすべて、平均正答率で県平均・市平均を下回っている。</p>	<p>・相手や目的に応じて適切な言葉を選び、根拠を明確にして自分の考えを筋道立てて述べる力を養うことが重要なので、日常生活や学習から課題を見つけ、必要な情報を収集・整理し、段落の役割を意識して構成を考えて文章を書くことを指導していきたい。</p> <p>・書いた文章を読み返し、推敲する活動を取り入れることや生徒同士で読み合うこと、他教科との関連付けや書く意欲を高める活動を取り入れていきたい。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県平均を0.5ポイント上回ったものの、市平均を1.6ポイント下回っている。</p> <p>○文章の内容について叙述を基に捉えることができるかどうかを見る問題は、平均正答率で県平均・市平均を上回っている。</p> <p>●場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉えることができるかどうかを見る問題はすべて、平均正答率で県平均・市平均を下回っている。</p>	<p>・文章の目的や構成を理解し、事実と感想・意見を区別する能力を育てていきたい。</p> <p>・相手や目的に応じて自分の考えを効果的に伝え、情報を分析する能力を育てていきたい。</p> <p>・音読や要約、異なる視点からの読み比べ、伝え合いといった多様な言語活動を通して、生徒の読解力と表現力を高めていきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	56.8	58.7	56.6
	歴史	39.9	45.4	42.4
観点	知識・技能	46.7	50.7	48.2
	思考・判断・表現	54.5	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

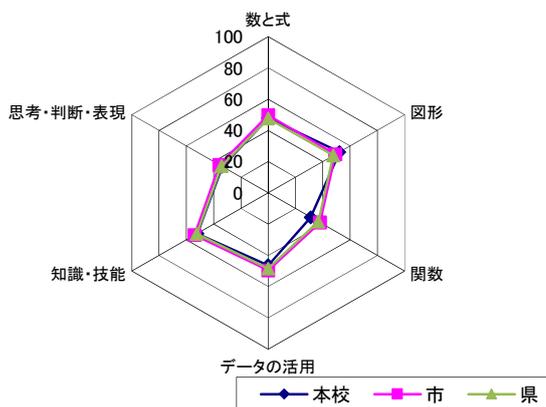
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率は、県平均を0.2ポイント上回り、市平均を1.9ポイント下回っている。</p> <p>○多くの問題で、県平均を上回っている。特に、六大陸と三大洋の名称と位置関係についての問題では、県平均を5.8ポイント、市平均を3.3ポイント上回っている。</p> <p>●乾燥帯の気候とその地域の特色についての問題が、県平均を6.9ポイント、市平均を7.9ポイント下回った。</p>	<p>・今後も基礎的・基本的な内容をしっかり習得させ、理解力の向上に努めたい。</p> <p>・単元ごとに、レポートを書き、その内容について質疑応答をする学習活動を継続して行っている。この学習活動と、複数の資料等を関連付けたり、既存の学習内容と関連付けたりすることをとおして、特色や相互の関連等を考察する能力を育みたい。</p> <p>・一人一台端末などを活用し、探究型の学習機会を増やしていきたい。</p>
歴史	<p>平均正答率は、県平均を2.5ポイント、市平均を5.5ポイント下回っている。</p> <p>○旧石器時代から縄文時代にかけての生活の変化についての問題では、県平均を6.4ポイント、市平均を5.0ポイント上回っている。</p> <p>●多くの問題で、県平均・市平均を下回っている。特に、古代の日本(倭)の対外関係についての問題では、県平均を3.6ポイント、市平均を12.8ポイント下回った。</p>	<p>・今後も基礎的・基本的な内容をしっかり習得させ、理解力の向上に努めたい。</p> <p>・小学校社会科との接続を意識し、世界の歴史を背景に、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目させる学習活動を話し合い活動をとおして行うことで、それぞれの時代の特色を様々な角度から大きく捉えさせる一助としたい。</p> <p>・一人一台端末などを活用し、探究型の学習機会を増やしていきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	47.8	49.7	47.6
	図形	52.3	49.2	47.7
	関数	31.2	38.0	36.8
	データの活用	46.4	49.6	48.5
観点	知識・技能	52.0	54.0	52.5
	思考・判断・表現	33.7	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

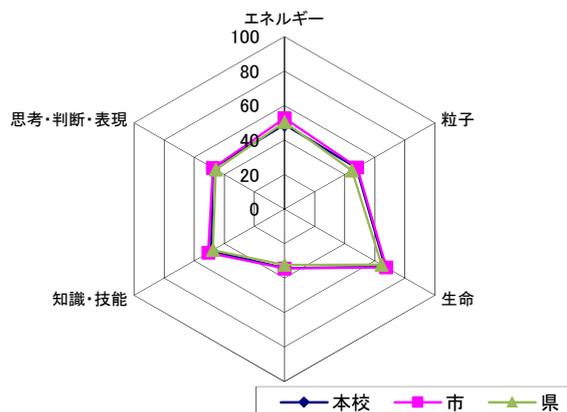
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は、市平均とほぼ同じ。</p> <p>○不等式の問題が市平均を上回っている。</p> <p>●四則の混じった計算と1次式の減法、前日の最低気温について、正しい計算をしている生徒を選ぶことができるかどうかをみる問題が市平均を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計算をする際には、括弧を外す際の符号の変化や、同類項をまとめる際の注意点について、より丁寧な指導を行う。 ・問題文から必要な情報を抽出し、文字を使って数量の関係性を式で表現する練習が不足している可能性がある。文章題の授業では、「何を求めたいのか」「式をつくるために必要な情報は何か」を明確にしながら授業を行う。
図形	<p>平均正答率は、市平均を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○回転移動、対称移動の問題は市の平均よりも高く、他の問題も市平均とほぼ同じだった。</p> <p>●おうぎ形の面積をもとに、おうぎ形と半径が等しい円の面積を求める問題や立方体から三角錐を切り取った立体の体積を求める問題の正答率が低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図形に関する性質を論理的に証明する問題は正答率が非常に低いため、仮定と結論を明確にし、既習の定理や性質を復習しながら授業を行っていく必要がある。 ・図形を操作するイメージ力や空間認識能力が低い生徒が多い。実際に図形を動かしてみたり、ICTを活用して動的な図形、立体図を観察させたりするなど、視覚的・体験的な学習を取り入れていく。
関数	<p>平均正答率は、市平均を6.8ポイント下回っている。</p> <p>○比例の式からyの値を求める問題の正答率が60.7%で関数の問題では最も高かった。</p> <p>●全体を通して正答率が市平均より低い。特に、与えられたグラフから、三角形の面積の差を表している選択肢を選ぶ問題が市平均より13.5ポイントも低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた情報を分析し、論理的に思考し、自分の考えを正確に表現する力が不足している。生徒自身に数学的な言葉で関係性を説明させる機会を授業の中に設ける。 ・表から式、式からグラフ、グラフから式など、様々な表現活動をセットで行い、情報整理能力を高める必要がある。
データの活用	<p>平均正答率は、市平均を3.5ポイント下回っている。</p> <p>○ヒストグラムを読み取り、自分の考えを理由とともに説明する問題の正答率が市平均を上回った。</p> <p>●度数分布表の問題の正答率は市平均を5ポイント以上下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた情報から必要なデータを選ぶ力が不足しているため、授業の導入として扱う。 ・中央値や最頻値、度数といった基本的な概念を、定義から深く理解させる指導を行う。 ・論理的な説明ができるよう対話型の授業を展開する。答えを求めるだけでなく、「どうしてそう考えたのか？」と生徒に発問し、自分の思考プロセスを言語化させる機会を増やす。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	49.1	52.7	50.5
	粒子	47.8	48.3	44.9
	生命	66.8	67.6	64.4
	地球	34.2	34.4	32.3
観点	知識・技能	48.6	50.7	47.6
	思考・判断・表現	47.8	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

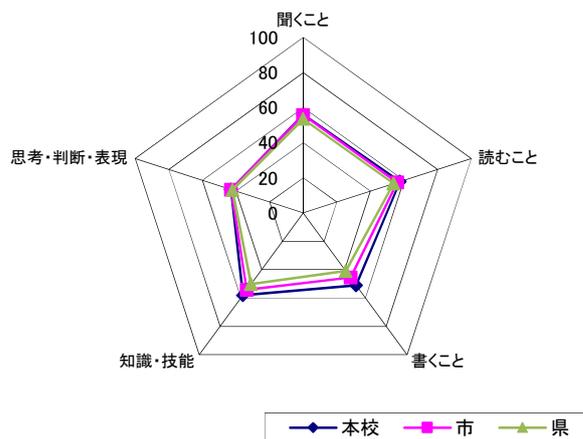
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は、県平均を1.4ポイント下回り、市平均を3.6ポイント下回った。</p> <p>○つり合いの力について問う問題に関して、県平均を10.1ポイント、市平均を9.9ポイント上回った。</p> <p>●光について問う問題に関して、3つの設問全てにおいて県・市の平均を下回った。</p>	<p>・音や力についての学習内容に比べて、光に関する内容の理解度が低い。光の学習内容は、日常的に実感している事実と、学習内容が結びつきにくいところである。ICT教材や実験をとおして、光の進み方、反射・屈折のときの規則性などを深く理解できるよう支援したい。また、作図への苦手意識が見受けられるため、問題演習を重ねて理解を深められるよう支援したい。</p>
粒子	<p>平均正答率は、県平均を2.9ポイント上回り、市平均を0.5ポイント下回った。</p> <p>○質量パーセント濃度から溶質の質量を算出する問題に関して、県平均を12.6ポイント、市平均を10.9ポイント上回った。</p> <p>●蒸留の実験結果を推測する問題について、県平均を6.5ポイント、市平均を11.3ポイント下回った。</p>	<p>・計算問題については、1年次の授業中に時間を取って演習に取り組んだ成果が見られる。一方で、実験結果を類推したり考察したりする力に欠けていることがわかる。授業中に実験結果について考えさせる活動はあるが、一部の理解度が高い生徒に任せてしまい、思考力が高まっていないと考えられる。個人個人で論理的に考えを深める活動を取り入れていきたい。</p>
生命	<p>平均正答率は、県平均を2.4ポイント上回り、市平均を0.8ポイント下回った。</p> <p>○節足動物の分類について問う問題に関して、県平均を2.9ポイント、市平均を1.4ポイント上回った。</p> <p>●被子植物の花のつくりを類推する問題に関して、県平均は1.1ポイント上回ったが、市平均を2.6ポイント下回った。</p>	<p>・生命に関する内容は、生徒の関心も高く、本調査からも全体的に理解度が高いことが見て取れる。素地がある分野であることを生かし、科学的なものの見方や考え方が育てられるように、より発展的な実験や観察を取り入れていきたい。</p>
地球	<p>平均正答率は、県平均を1.9ポイント上回り、市平均を0.2ポイント下回った。</p> <p>○初期微動継続時間について問う問題に関して、県平均を10.4ポイント、市平均を10.6ポイント上回った。</p> <p>●新生代の示準化石について問う問題に関して、県平均を8.3ポイント、市平均を11.6ポイント下回った。</p>	<p>・地震や地層については、1年次の授業中に十分に時間を取って演習に取り組んだ成果が見られる。一方で、化石や岩石に関する内容については理解が低いことがわかる。生徒の興味を引き出すような授業展開や、楽しんで取り組むことができるような発問を考えていきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	56.0	55.8	53.5
	読むこと	57.6	56.0	53.8
	書くこと	51.1	45.6	40.9
観点	知識・技能	58.1	54.3	50.2
	思考・判断・表現	43.0	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は、県平均を2.5ポイント、市平均を0.2ポイント上回った。</p> <p>○「絵を見て、情報を正確に聞き取る」問題のうち1問は、県平均72.2%に対して、本校は94.9%の正答率であった。</p> <p>●「日常的な話題について、話の概要を捉えることができるかどうかをみる」問題の正答率は県平均・市平均を8ポイントあまり下回った。</p>	<p>・日常的な話題に対して自分の考えや意見を書くことを苦手とする生徒が多い。</p> <p>・今後は、聞いたことを文章にまとめたり、考えや意見を書く授業を増やしていきたい。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県平均を3.8ポイント、市平均を1.6ポイント上回った。</p> <p>○「対話を読み、適切なグラフを選択する」問題の正答率は、県平均・市平均よりも高い、63.3%となっている。</p> <p>●「自分の置かれた状況などから判断し、必要な情報を読み取る」問題に関しては、わずかではあるが、市の平均を下回っている。</p>	<p>・文章を読み、必要な情報を収集することはできている。引き続き、教科書の音読と内容の理解は授業の中で重視していく。</p> <p>・文章を読み、自分に置き換えて答えることが苦手な生徒が多い。</p> <p>・今後は、長文読解だけではなく、それに対する自分の考えを英文で書く学習を取り入れたい。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県平均を10.2ポイント、市平均を5.5ポイント上回った。</p> <p>○ほとんどの問題で県平均・市平均を上回っている。</p> <p>●「対話が成り立つように空欄を埋める」問題に関しては、正答率が低い傾向にある。</p>	<p>・文章の内容理解だけではなく、疑問詞や単語を覚え、適切な場面で使える力を身につけさせたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

(1)学習について
 ①家庭学習
 ○「家で学校の宿題をしている」「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は、県平均を上回った。
 ●「家で自分で計画を立てて学習している」「家で学校の授業の復習をしている」「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」について肯定的な回答をしている生徒の割合は県平均を下回った。
 ●平日「まったくしない」と回答している生徒の割合は13.8%で県平均を下回ったが、休日は5.2%で県平均を上回った。
 ●学校園で定めている平日「2時間以上」と回答している生徒の割合は、23.3%であった。
 ※生徒が各自で取り組んでいる自主学習の内容の見直しをする機会をもち、復習やテスト等の間違い直しを中心とするよう助言し、学習習慣の確立や学習内容の定着を図る。
 (2)読書について
 ○「1か月に読む本の冊数を3冊以上」と回答している生徒の割合は、42.3%で県平均を上回った。
 ※多くの本に触れる機会が、委員会や図書館司書のはたらきかけにより充実し、その効果が得られてはいるものの、もっと多くの生徒に浸透するようさらに呼びかけ等を行っていく。
 (3)宿題について
 ○「宿題は自分のためになっている」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は、93.1%で県平均を上回った。
 ●「宿題の量はちょうどよい」の質問においては、多いと回答している生徒の割合が25.0%であった。
 ※宿題の量については、学力をつけていくための一助として必要なものであると同時に、計画的な学習を進めることにも結びつくことを助言する。
 (4)学ぶ意欲について
 ○「毎日の生活が充実している」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は95.7%と県平均を上回った。
 ●「自分から進んで学習に取り組んでいる」について肯定的な回答をしている生徒の割合は、55.1%であり、県平均を下回った。
 ※充実した生活の中に、学校で学んでいくことの楽しさや授業から新しいことを習得していくことの楽しさを味わえるような授業や学校行事のもち方を考えていく。
 (5)学習態度
 ○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は、県平均を上回った。
 ●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「友達と話そうとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は、県平均を下回った。
 ※授業では意見を発表しやすい雰囲気をつくることを引き続き行い、自分の考えを発表することや他の人の考えを聞くことは、自分の考えが広がることであり、授業では正答だけを求めているわけではないことなどを助言し、活気ある授業づくりに努める。
 (6)生活について
 ○「朝食を毎日食べる」「7時間以上睡眠をとる」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は県平均を上回った。
 ○「家の人と話をする」「自分は家族の大切な一員である」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は県平均を上回った。
 ●「学校のきまりを守っている」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」について肯定的な回答をしている生徒の割合は、県平均を下回った。
 ●「ゲームを一日、2時間以上している」生徒の割合が50%、「スマートフォンなどでメールやインターネットを一日2時間以上している」生徒の割合が30%と高い割合である。
 ●「難しいことも失敗を恐れず挑戦する」生徒の割合が65.5%、「自分の行動や言動に自信をもっている」生徒の割合が49.1%と十分ではなかった。
 ●「人と話すことは楽しい」「思いやりの心をもって接している」について肯定的な回答をしている生徒の割合は、県平均を下回った。
 ※家庭生活では、家族と話したり、規則正しい生活を送ることができているものの、時間の使い方についてはゲームやスマホの使用時間などをみと課題がある。また、学校生活では、規範意識の低下や人との接し方、困難なことへも向き合う姿勢など集団での生活に抵抗感がある生徒が少しずつ増えている傾向にある。改めて、基本的な生活をしっかりと行うことの大切さを伝え、一人一人の生徒に丁寧に寄り添うことが今後一層必要になると考える。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動の工夫	①話し合い活動では、自分の考えを伝えるだけでなく、他者の意見をよく聞くことにも重点を置き、自分の考えと対比させるなどして、自分の考えを深めさせる。 ②ICT機器を活用した言語活動の充実を図る。	①「クラスは発言しやすい雰囲気である」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対する肯定的回答は約9割であった。 ②「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」についての肯定的回答は、約7割であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科領域の学習は、「将来のために大切だと思いますか」についての肯定的回答が、46.6%から96.6%とばらつきが見られること。	生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、キャリア教育の充実を図ること。	・学校の教育活動全体を通じた組織的かつ計画的な進路指導を行う。 ・家庭及び地域や福祉、労働等の業務を行う関係機関との連携を十分に図る。 ・ICTやゲストティーチャーによる情報の提供を行う。